



業務プロセス改革推進部

鈴木 圭一 (2006年入社、経営工学専攻)

数学を駆使した ITエンジニアリングで オペレーショナル・エクセレンス^(※) を追求

大学でオペレーションズ・リサーチ(O.R)を学んだ。数学を駆使したITエンジニアリングによって、さまざまな企業活動に潜む問題の本質や法則性を明らかにし、最適な解決方法を見出すもので、経営の意思決定ツールとして活用されている。

「鉄づくりの現場にもORが適用されており、大学での研究が活かせるフィールドで働くことに魅力を感じました。入社後は八幡製鉄所に配属され、薄板の操業系システムの企画・設計に携わりました。製鉄所ではお客様の多様な注文に応えつつ効率的な生産を行うため、複雑で高度なシステムが稼働しています。しかしそのシステムを動かす現場では意外と人手に頼る作業が多いことに気づき、省力化と生産性向上につながる改善に取り組みました」

その後本社に異動となった。新日鉄は本社と全国10カ所の製造拠点がそれぞれ大規模な情報システムを保有しており、全社的な連携や効率的なシステム開発・保守運用の面で課題があった。こうした中、業務プロセス改革推進部が中心となり全社横断的な業務改革を実現する統合システムの構築を進めてきている。

「営業、財務、購買、設備管理、人事など機能部門ごとに本社と製鉄所をつなぐ全社統合システムを検討する中で、私は見積ルールづくりと購買システム構築を担当しています。全社統合システムを導入するには、各所の経験則に基づく独自のノウハウを定量化し、何を優先すべきか、どのように集約すべきか決定し、誰もが効率的に運用できるようにしなければなりません。データを価値ある情報に変換する論理的思考やスキルを磨き、今後とも全社の競争力向上に貢献する方法論を提示していきたいですね」



※ オペレーショナル・エクセレンス：業務改善が現場に定着し、組織として強みとなっていること